

二〇二三年七月二日

音涼し石畳みゆく男下駄

ぼんこ

風涼し門前は木のアーケード

なつき

立葵仲間に入れて立話

うつぎ

曾孫抱くコロナマスクは外されず

宏 虎

梶子のつぼむ筆先うす緑

はく子

揺らめけるレトロガラスの緑雨かな

うつぎ

片影を拾ひて歩く小買物

わかば

奥の院野鳥の降らす青時雨

愛 正

池の径数多や雨後の梅雨きのこ

こすもす

毎週句会秀句・みのる選・二〇二三年七月三日

鶺鴒を窓辺に眺め旅の宿

素 秀

万緑を四囲に朱塗りの太鼓橋

ぼんこ

古戦場山の茂りの夕鴉

ぼんこ

紫をこぼして雨の花菖蒲

うつぎ

運転士西日に向かひ指差喚呼

む べ

片蔭を一行に行くランドセル

うつぎ

玉砂利の箒目崩す梅雨滂沱

よう子